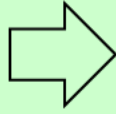


## 地域から預かっている農地を将来につなぐ ～ 株式会社 ファームおそのづか ～

### 経営体の概要

法人化前：平成19年度  
基幹作物：水稻25ha、大豆8ha  
経営面積：借地36ha



現在：令和2年度

基幹作物：水稻37.7ha、大豆7.5ha、  
野菜(せいさい)0.5ha、啓翁桜(けいおうざくら)  
2.1ha、大豆作業受託2.6ha

経営面積：自作地1.6ha、借地48.8ha

### 取組の経緯と経営転換のポイント等

本地域は、地区の下流に位置し水の確保に苦勞していたが、国営事業の実施により用水が安定して供給され水管理作業の軽減が図られた。先行したほ場整備事業では、標準区画60aと大型機械の利用が可能となり、用水路は二連水路で下流側でも安心して利用できるようになった。排水路は暗渠となり作業の安全性が向上した。

本法人は、平成19年の集落営農組合の設立と同時に、基幹作業と農産物販売を委託する団体を設立した。その後、平成21年に株式会社ファームおそのづかを設立し、高齢化等により営農できなくなった農家の農地を借り受け、荒廃農地の発生を防止している。

法人では、水稻の他、大豆、啓翁桜及び野菜(せいさい)を組み合わせた営農を行っている。

### 営農改善のポイント

#### ① 経営規模の拡大

国営事業及び先行したほ場整備により、用水の安定供給や大型機械導入による省力化等が図られたことから、経営面積は法人化前と比べ約15ha拡大し、大型防除機による防除作業を延べ300ha程受託している。また、冬期間に出荷する啓翁桜や野菜(せいさい)の栽培にも取り組んでいる。



#### ② 栽培技術の確立・向上

法人では、水稻直播栽培の導入により省力化や低コスト化が図られ栽培面積が拡大した。また、直播用種子は独自に配合した酸化鉄を用い、地域にあったコーティング技術を確立。肥料メーカーに依頼したオリジナル発肥料を使用し、直播栽培の収量は「はえぬき」で630kg/10aとなっている。



#### ③ 流通・販売の工夫

生産した米は、JA、地元の病院や食堂、旅館やインターネット等多様な販売先を確保し、無洗米等のニーズに合わせた販売も行っている。また、将来の輸出を視野にASIAGAPを取得し、食品安全、労働安全等信頼できる栽培に取り組んでいる。



### 事業概要

事業種：国営かんがい排水事業  
関係市：米沢市、南陽市、高畠町、川西町  
受益面積：8,804ha  
事業期間：平成18年度～平成27年度  
事業目的：用水改良  
主要工事：貯水池2箇所、頭首工6箇所、揚水機場2箇所  
用水路13路線、用水管理施設、発電施設

位置図（山形県）



米沢平野二期

<問い合わせ先>

東北農政局  
農村振興部農地整備課  
電話：022-263-1111  
(内線4460)

(令和2年度調査時点)